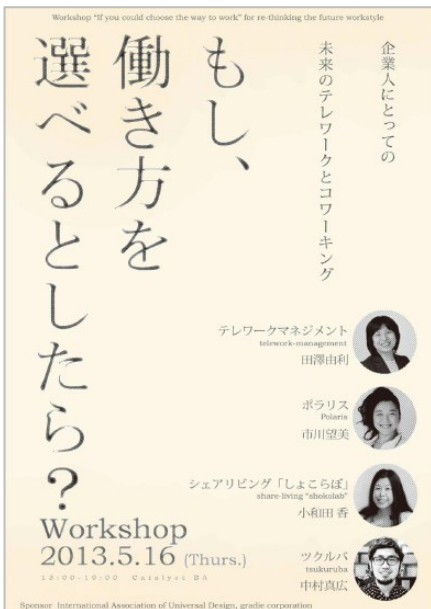


IAUD Newsletter vol.6 第8号 (2013年8月上旬号) 目次

- 1. 労働環境 PJ WS 「もし、働き方を選べるとしたら？」開催報告・・・ 1
- 2. 住空間 PJ 「コドモ里山ラボ 東京森都心」視察報告・・・・・・・・・・ 6
- 3. 「48時間デザインマラソン in こうべ」開催&参加者募集のご案内・・・ 9
- 4. 第3回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 神戸市で実施のお知らせ・・・ 9
- 5. IAUD 8月の予定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

新しいワークスタイルが生み出す可能性を確認

労働環境 PJ ワークショップ「もし、働き方を選べるとしたら？」開催報告



多様性のある新たなワークスタイルの発信を目指して活動している労働環境プロジェクトは、多様性あるワークスタイルが実現可能となり転換期の中、「働く」ということをもう一度考えるワークショップ「もし働き方を選べるとしたら？～企業人にとっての未来のテレワークとコワーキング～」を5月16日(木)にカタリストBA(東京・二子玉川)で開催しました。

当日は同PJメンバーの他、IAUD会員や一般公募からの参加者など約50名が参加し、活発な意見交換が行われました。

今号のNewsletterでは、ワークショップの様子を同PJ主査の田中培仁氏に報告していただきます。

←開催案内チラシ

新しい働き方を創り出す有効な第一歩を探る

年功序列の崩壊、育児と仕事の両立、定年の延長化など、私たちの就業環境は大きな転換点にあります。その変化の兆しとして、東日本大震災時には場所に依存しないテレワーク(在宅勤務)という働き方が大きく注目を浴びました。また、主にフリーランスやクリエイターたちのコワーキング(個々に仕事を持つ人が働く場所を共有)という働き方は、新しい選択肢として普及期に入りつつあります。一方、多くの企業人にとってはこうした環境下でありながらも従来の就業慣習上、なかなか一步を踏み出せない状況にあると思います。

今回のワークショップでは、新たな働き方に興味を持ち自分の可能性を伸ばしたいというマインドを持った方々と一緒に、すでに新しい取り組みをされている多彩なゲストからインスピレーションを頂きながら、新しい働き方を創り出す有効な第一歩を探りました。

なぜ私たちは新しい働き方を選べないのか

まずは、当日のコーディネータを務める㈱グラデュエの磯村歩氏からオープニング挨拶がありました。

その後、労働環境PJ主査の田中培仁氏から、「なぜ私たちは働き方を選べないのか？」という問いを投げかけた、新たなワークスタイルの可能性についてのプレゼンテーションが行われました。

未来の労働環境において、企業人が「時間」「場所」「組織」「特性」「状況」などの壁を自ら越えて、多様性あるワークスタイルをどう実現するのか。

また、一部の先進企業で実践され始めている先進的な働き方を自ら選べるとしたら、どんな未来を描くのか。視座を参加者と共有しました。



労働環境PJ主査の田中氏

ユニークな働き方の実践者によるプレゼンテーション

その後、「私はこんなふうに働き方を創り上げた」をテーマに、4人のゲスト講演者によるプレゼンテーションが行われました。テレワークやコワーキングを実現する上での示唆など、実践者ならではの具体的な話をいただきました。

■ 「子育て」×「テレワーク」

—㈱テレワークマネジメント 田澤由利氏—



㈱テレワークマネジメントの田澤氏

子育ての時期にいったんエンジンを止める（仕事をやめる）と再開しにくいのが現状である。テレワークは減速するが、エンジンを止めないやり方である。普及しない原因として、在宅勤務中の労務管理や同僚間の不公平感がある。また、在宅勤務用に特定の仕事（たとえば資料作成）をするのではなく、会社でも自宅でも同じように仕事ができるようになれば、企業にもメリットが出てくる。ワークライフバランスは人の生き方、ダイバーシティは社会の在り方、テレワークはそれを実現する働き方である。

■ 「地域」×「コラボワーク」

—非営利型株式会社 Polaris 市川望美氏—

企業の正社員だったが、出産のタイミングで自分のやりたいことで起業を決意。現在は地域の活動をベースに、cococi やセタガヤ庶務部などを立上げ地産地消の働き方を実践している。

「テレワーク」+「コミュニティ」=「コラボワーク」という概念のもと、適材適所、本領発揮、働き方・暮らし方の自己選択、成果の平等ではな



Polaris の市川氏

く機会の平等を重視している。ライフステージに合わせ、ワークもライフも犠牲にしない新しい働き方を自ら実践している。

■「病気」×「シェアハウス」×「コワーキング」 ーシェアリビング「しょこらぼ」 小和田香氏ー



しょこらぼの小和田氏

病気で疲れやすく横になることがあるが、スマホやタブレットを活用すれば寝ていても仕事はできる。できること、できないことがあるという事実を認めることが重要。

会社のビルに毎日出勤している人にはできない仕事をやろうと考え、自宅シェアリビングとし仕事をしている。〇〇できなくても必要！と思われる存在になること、〇〇できれば可能になるという方法を考えぬくことが重要で、自分ならではの最大限の価値を見出す働き方を実践している。

■「場」×「コミュニティ」 ー(株)ツクルバ 中村真広氏ー

本職があるからこそ、好きなことができる。2足のわらじによって、ノーリスクで自由に好きなことを実践できる環境を作り出している。

起業前の会社員時代、湘南逗子で廃棄されるヨットの帆をカバンなどにリサイクルして売る「アップサイクルプロジェクト」を始めたり、仲間と共同でカフェを作って運営したり、ということ仕事を仕事でなく個人の活動としてやってきた。

現在は、コワーキングスペースを次々にプロデュース・運営している。コワーキングスペースは、場所だけでなく機会とアイデアを共有することで、

「場」×「コミュニティ」＝「social capital」という概念のもと活動を続けている。



(株)ツクルバの中村氏

ゲスト講演者との対談



フィッシュボールダイアログ

プレゼンテーションの後は、「新しい働き方を創りあげる上でのブレークスルーポイントは？」という観点で、ゲスト講演者を中心に「フィッシュボールダイアログ」を行ないました。

参加者が輪になり、次々と他の参加者にバトンタッチしながらトークを拡げていく参加型のセッションで、活発な意見交換が行われました。

キーとなる発言録には、下記のようなものがありました。

- ・「しょこらぼ」はシェアハウスとコワーキングを兼ねるものであり、災害時の情報ステーションとしても活用したい。
- ・雇用型の場合、在宅では新しい仕事を作っていくことはできない。ここが雇用型と自営型との違いである。
- ・渋谷駅周辺で「はしご図書館」という木箱を提供して店の人に本を用意してもらうプロジェクトを実施している。このような活動が地域での価値創出につながっていくかもしれない。
- ・子育てを通じて地域とつながっているのが実感できた。また、母親が働いている姿が子供に伝わるのも良い。
- ・(テレワークとコワーキングを実践した会場からの意見) ほとんどが個人ワークであったため、週1回のWeb会議とFace2Face会議だけで、仕事面では何の問題もなかった。ただし、「日に焼けたね」「風邪ひいた？」というような会話ができなくなってしまった。生産性より、人と人とのコミュニケーションが問題だと思った。
- ・テレワーク普及の問題は、管理とコミュニケーションである。
- ・Web上で自己申告制のタイムカードを運用している。また、抑制のため上司がキャプチャする機能もついており、ちゃんと仕事をしているとわかってもらえると労働者からは好評である。
- ・介護の場合は育児と違って期間が見えない。いったん離職してしまうと復職するのが非常に難しいので、介護離職を防ぐのが重要である。また、育児と介護では年齢や役職にも違いがある。

7つの多様な働き方についてディスカッション

最後に、個人ワークとグループワーク、プレゼンテーションが行われました。

まずは、参加者それぞれにゲストトークやフィッシュボールダイアログでインスピレーションを得ながら「今までの自分のスタイル」を振り返りつつ、「これからの自分の可能性」を描いてもらい、「〇〇」を「〇〇」で実現する「〇〇〇〇」スタイルをワークシートにまとめていただきました。およそ50種類もの新たなワークスタイルが創り出されました。



グループワーク



グループワークを発表する磯村氏

さらに、それらのワークスタイルを磯村氏と労働環境PJメンバーで「7つのスタイル」に分類し、7つのチームに分かれてグループワークを実施しました。「ワーカーにとっての価値」「雇用者にとっての価値」「社会にとっての価値」を踏まえ、多様な働き方についてグループ毎にディスカッションを行ない、最後にその内容を発表してワークショップは終了しました。当日の議論から生み出されたキーワードを以下に紹介します。

1. 「働き続ける」をテレワークで実現する、質が上がる／質を上げるスタイル
→セルフマネジメント能力、管理職の新しいマネジメント能力、雇用の維持・拡大
2. 企業価値と個人価値の両立を多様な働き方で実現する、状況に合わせた機能別ワークスタイル
→自分の価値向上、企業人の能力・スキルを社会で活かす
3. オープンイノベーションを特区で実現するシリコンバレースタイル
→日本の R&D 部門のコワーキングスペースを作る、国際競争力、スピニアウト
4. 価値を ICT (クラウド) で実現する CROWD CLOUD スタイル
→共創、自在度、目標 (価値) の共有、経営価値化
5. 複数軸をマイプロジェクトで実現するパラレルプロリーマンスタイル
→複数のプロフェッショナル軸、複数の企業・組織との連携、相乗効果
6. サステナブルな生活を編集力で実現する「志事スタイル」
→途切れないキャリア、国民・市民の満足度向上、社会的な規範
7. 生活に密着した仕事が見える化で実現する知的ワークスタイル
→地域に新しいプレイヤーを、共存、安心安全

「自分のスタイル」×「新しい働き方」

今回のワークショップでは、ワーカーそれぞれの環境や背景と「新しい働き方」を掛け合わせる「多様性」×「新しい働き方」によって、新たな価値を生むワークスタイルの軸を発見することができました。

また、今までの働き方での環境的制約や身体的制約、状況的制約など仕事の阻害要因とされてきた制約も、見方を変えれば自分にしかない新たな可能性に変化させることが可能だということが明確になってきました。

さらに、たくさんの参加者と議論することで、実に多くの観点からの気づきを得ることができ、これからの働き方についての示唆を得ました。

労働環境 PJ ではこの軸をベースに、得られた知見データを基に考察を行ない、新しいワークスタイルの可能性を継続的に発信できるメディアとなるべく活動を行っていく予定です。

最後に、ワークショップに参加して議論をしていただいたゲストや関係者、多くの一般参加の方に心より感謝いたします。(了)

※本ワークショップを記事として取り上げていただいた HP を紹介します。

・組織人の新しい働き方、暮らし方を紹介するウェブマガジン「My Desk and Team」

<http://mydeskteam.com/editors-note/508/>

・ユルイ繋がりのある暮らしを考えるウェブマガジン「ユルツナ」

<http://www.yurutsuna.jp/tour/pg384.html>

・co-lab 二子玉川 News

http://co-lab.jp/locations/futako/news_futako/9250

「UD プラス」に関する新たな気づきを共有 活動報告:住空間 PJ 新空間視察「コドモ里山ラボ 東京森都心」

UD先進事例の視察から見出した「UDプラス」の視点

住空間 PJ は、これまで住空間や各種施設などの先進事例視察を継続し、UD6 視点での分析とその更新を行うとともに、同 PJ の視点で UD 的好事例を考察してきました。こうした活動の中から「身体的、精神的に適正な負荷（刺激）を与えることで、機能低下を防いだり、機能を向上させる」という新たな UD の在り方「UD プラス」をテーマとして取り上げ、更なる事例調査や専門家へのヒアリングを行い、その成果を国際会議等の場で IAUD 内外に発信してきました。

今号の Newsletter では、6 月 24 日（月）に「コドモ里山ラボ 東京森都心」（東京都八王子市）を視察した様子を、同 PJ 副主査の平井伸佳氏に報告していただきます。

本年度最初の視察テーマはキッズデザインハウス



本年度最初の視察テーマに「キッズデザインハウス」を選びました。子どもにとっての安心や安全といったUDの基本に加え、子どもの生きる力を育むための数多くの仕掛けやアイデアを有するという「キッズデザインハウス」には、住空間PJで取り組んできた「UDプラス」につながる知見が多く学べるのではないかと考えたからです。

←コドモ里山ラボ街区全体俯瞰イメージ

そこで、住空間PJのメンバーに会員企業からのゲスト参加を含めた18名で、6月24日（月）に「コドモ里山ラボ 東京森都心」を視察しました。

はじめにコンセプトムービーを視聴してから建物を見学し、その後リビングに集まってくつろいだ雰囲気の中で、気づきの共有ミーティングを行いました。

子どもの生きる力を育む住まい体験施設

今回視察した「コドモ里山ラボ 東京森都心」は、住空間 PJ 参加企業である積水ハウス(株)が長年研究してきた、子どもの生きる力を育む住まいづくりの知見を活かした生活提案「コドモイドコロ」に基づき、異業種 5 社（(株)アクタス、コクヨ(株)、(株)ジャクエツ、パナソニック(株)、積水ハウス(株)）のコラボレーションで設計・開発されたキッズデザイン体験施設です。キッズデザインを生活空間で体験できるモデル棟と、クルドサック（自動車の通り抜けを排除するために設ける方向転換が可能な袋小路）を囲む、モデル棟を含め 4 棟の住宅からなる街区で構成されています。

2013 年 5 月に東京森都心多摩ニュータウン東山にオープンし、10 月 27 日（日）までの期間限定で公開される予定です。

※「コドモ里山ラボ 東京森都心」詳しくはこちらをご覧ください↓

<http://www.sekisuihouse.com/style/suggestion/kids/satolab/>

なお、「コドモイドコロ」はキッズデザイン協議会（内閣府認証 NPO 本部：東京都港区）が 2013 年 10 月から開始する「CSD 認証」制度（子どもの安全性向上のための業界横断型ガイドラインを適用し、デザインプロセス評価と企業が実施した製品評価の確認を主体として認証制度）のプレ認証第 1 号に合格しているとのこと。



【ピットリビング】

床をくぼませたピットリビングは、寝転んだり、段に腰かけたりして、家族が思い思いの姿勢でくつろげる。



【マドベ】

窓と一体となったデスクコーナー。リビングにいながらデスク作業ができ、外の景色も楽しめる。



【マグネットコンセント】（UD アイテム）

足が引っ掛かっても、マグネットなのですぐに抜けて転倒を防止します。



【ドアスクリーン】（UD アイテム）

開き戸開閉時の吊元にできる隙間をカバー。巻き取り式のすっきりとしたデザイン。

UD プラス視点での気づきを共有

異なる業種から参加したメンバーが、現場の観察を通じて得た多様な視点からの多くの気づきを参加メンバー間で共有しました。

・UD のディテールは確保しつつ、子ども達が家の外で遊べるための「見守り」に通じる「マドベ」や（家の外への）「フラットアクセス確保」といった、気持ちを外に向ける、家の外で子どもが安心して元気に遊べるように、という仕掛けの部分がキッズデザイン的によいと思う。



モデル棟内見学の様子

- ・家作りにも男性目線、女性目線といった観点があるが、子ども目線もあるということに気づいた。子どもが楽しそうにしているのを見るのは、大人にとっても嬉しい。
- ・子どもの生きる力を育むということは、勉強ができればよいということではなく、人が成長するための基盤を大切にすることが大事という、新しい考えを見た気がする。
- ・家だけでなく、地域、コミュニティ、その土地の歴史といったものとの「つながり」の部分に感銘を受けた。子どもの「今」と「未来」につながっていくものだと感じた。
- ・人が集って街になって、ということを経験する外に出ると感じることができる。風が抜ける建物の配置も気持ちがよい。家以外にも集える場所があり、街づくりとしても上手くできている。

キッズデザインハウスということで、子どもの安心・安全といった UD 配慮面を確保するだけでなく、「子どもの生きる力を育てていく」ための空間的しかけや工夫が随所に盛り込まれており、住空間 PJ が提唱してきた UD プラス的な概念を具現化した事例だといえるのではないかと感じました。

今後も UD プラスについて発信

今後も住空間 PJ では、他の研究部会との連携も視野に入れつつ、今回の視察でも得られた UD プラスに関する新たな気づき・考え方を深耕しながら『モチベーション×環境・機会（キッカケ）＝UD プラス』という仮説の検証を進め、今後も国際会議や成果報告会等の場を通じ UD プラスについて発信していきたいと考えています。（了）

「暮らしと絆」-未来を繋ぐ、街を繋ぐ、そこに住まう人の心を繋ぐ- 「48時間デザインマラソン in こうべ」開催&参加者募集のご案内

IAUD は UD を生活者と共に考え、具体的なデザイン開発と提案を行うワークショップ「48時間デザインマラソン in こうべ」を9月17日（火）から9月19日（木）に神戸芸術工科大学（兵庫県神戸市）で開催します。

今回は、「暮らしと絆-未来を繋ぐ、街を繋ぐ、そこに住まう人の心を繋ぐ-」をテーマに、神戸から日常的な暮らしを再度見つめなおします。そして、UDの意義や生活での重要性を共有し、神戸の暮らし手の皆様と共に私たちのこれからの暮らしのデザインについて提言を行います。



昨秋開催の「48時間 DMin 福岡」表彰式

現在、参加者を募集しております。詳細は以下をご覧ください。

<http://www.iaud.net/event/archives/1307/25-111111.php>



UD検定™

第3回 UD 検定 初級 講習会&検定試験 神戸市で実施のお知らせ

UD の更なる普及と実現をめざす一環として、IAUD が昨秋よりスタートさせた「UD 検定」の3回目となる「第3回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」を、9月16日（月・祝）13時半から、デザイン・クリエイティブセンター神戸（KIITO、兵庫県神戸市）で実施します。

今回も UD に関する基本的な知識を学習する講習会（2時間）と UD 検定初級試験（1時間・50問）のセット形式です。その場で学習でき、事前の準備が不要ですので、UD に興味のある一般生活者も気軽に参加できます。

また、合格者には「UD 検定・初級認定証」が発行されます



第2回 UD 検定 初級 講習会&検定試験（浜松町）

※検定の詳細は近日中に HP に掲載しますので、そちらをご覧ください。

※「第2回 UD 検定・初級 講習会&検定試験」開催報告はこちらをご覧ください。

<http://www.iaud.net/dayori-f/archives/1305/31-150000.php>

IAUD 8月の予定



月	火	水	木	金	土	日
			1 14:30～ メディア UDPJ @IAUD サロン	2 14:00～ 労働環境 PJ @IAUD サロン	3	4
5	6 15:00～ 住空間 PJ @IAUD サロン 15:00～ 検定委員会 @IAUD サロン	7	8	9	10	11
12 サロン夏季休業	13 事務局夏季休業	14	15	16	17	18
19 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン 15:00～ 国際会議検討委 員会 @IAUD サロン	20	21 13:30～ 手話用語 SWG @IAUD サロン	22	23 13:30～ 移動空間 PJ @CUDO	24	25
26	27 13:30～ 余暇の UDPJ 場所未定	28	29	30 13:30～ 標準化 WG 場所未定	31	

Newsletter では、誌面を会員の皆さまの UD に関わる情報交換の場と位置づけています。ぜひ、会員企業の UD 商品開発事例や PJ/WG の活動成果事例等の情報、国内外の UD 関連イベント、シンポジウム等の開催情報をお寄せ下さい。

次号は 8 月下旬発行予定

特集：香港「INCLUDE+設計知識週 2013」講演&ワークショップ参加報告（予定）

無断転載禁止

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン) :
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話：03-5541-5846 FAX：03-5541-5847 e-mail：salon@iaud.net